

「かまどベンチ」を披露

日野公民館とNPO法人ひびきあい日野（福本修一理事長）、昨年町で開催した「女性の視点を活かす地域づくり講座」の受講生の3つの団体の皆さんが手作りで「かまどベンチ」を設置されました。

かまどベンチは町の公共施設で初めて日野公民館に設置され、普段はベンチとして利用し、非常時等のかまどとして活用できるものです。

かまどベンチを作成された皆さんはこの取り組みが他の地域にも広がってほしい」と話されていました。



▲上手く炊けたご飯に思わず笑顔

ダイヤモンドクラブさんから寄付金をいただきました

ダイヤモンドクラブ（原田正美代表）から、第23回チャリティー歌・踊りの祭典を開催された際の募金78,227円を町に寄付していただきました。

町の防災対策のため、有効に使わせていただきます。ありがとうございました。

NPO法人コメリ災害対策センターと 災害時物品調達協定の調印式

7月14日（月）、コメリ災害対策センターと日野町との災害時応援協定の調印式を行いました。

この協定には、災害発生時、町が救助に必要な物資を要請することができるといった内容が記載されています。笠原専務理事は「東日本大震災ではコメリが2店舗被災し、全力で対応をしました。災害時にはそうした経験をもとに対応します」と話してくださいました。



▲調印式に参加された皆さん



防災・減災に 男女共同参画の視点を

平成23年の東日本大震災においては、応急復旧・復興の場面で女性の意見が十分に反映されず次のようなことがありました。

【避難所】

- * トイレが男女別でなく、身障者用のトイレがなかった。
- * 衛生用品等の生活必需品が不足した。
- * 授乳や着替えをするための場所がなかったため、女性は布団の中で着替えたり、人目を気にしながら授乳したりした。
- * 物干しに女性の下着を干せなかった。
- * 子どもが泣くので周囲に気を遣い、避難所にいることができなかった。
- * 女性や子どもへの暴力が避難所や仮設住宅等で起こった。

【その他】

- * 女性はパート・アルバイト等の非正規雇用が多いため、災害時に解雇・雇止めされた。
- * 家事、子育て、介護等の家庭的責任の負担が女性に集中し、心身の不調を抱えた。
- * 男性は家族を経済的に支え、守るのは自分の役割であるとの意識が強く、その責任を抱え込んだ。

これらは、平常時の課題でもあり、災害時に一層顕著になって現れます。

こうしたことから、国の防災基本計画が見直され、「日野町地域防災計画」についても見直しました。計画では、避難所等の運営における女性の参画の推進、避難者のプライバシーの確保や避難行動要支援者等への配慮、女性や子育て家庭のニーズへの配慮なども盛り込みました。

災害時に、高齢者や障がいのある人、妊産婦や子育てをしている人など、さまざまな人の意見を反映させるためには、普段から意思決定の場への男女の参画が大切です。



◆問い合わせ先

企画振興課 企画人権担当

☎65552